

｜ 平成 28 年度 ｜

びわ湖ホール

劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

は じ め に

21年目の「びわ湖ホール劇場サポーター」制度は、昨年度に制度を一度見直し、2016年度は新制度として動き出した1年でした。

劇場サポーターはびわ湖ホールが開館する3年前より活動を開始しました。その当時、少しでも多くのお客様にびわ湖ホールへご来場いただけるよう、地域や職場、友人など、人のネットワークを活かして、びわ湖ホールと舞台芸術の愛好の輪を広げることを目的に、「びわ湖ホール劇場サポーター」制度ができました。

この目的や信念を変えることなく、2016年度から、活動のさらなる充実を図りました。びわ湖ホール職員が講師を務める基礎講座に加え、外部講師を招請し特別講座を開講しました。さらに、オペラの稽古見学会などの劇場サポーターだけの特別プログラムも開催しましたので、舞台芸術への造詣をさらに深めていただけたのではないのでしょうか。また、サポーター交流会やホールとサポーターの意見交換の場<サポーターズ・サロン>を設けることで、例年以上にサポーターの皆さまとコミュニケーションが多く取れたように思います。私もサポーター主催のレクリエーションに参加し、非常に楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

サポーターの皆さまが、ご家族やご友人と一緒に公演を観にびわ湖ホールへ足を運んでいただいている姿をお見かけすると、大変嬉しく思います。ラ・フォル・ジュルネびわ湖でのボランティア活動に限らず、このように「誰かと一緒にびわ湖ホールの公演を楽しむこと」も劇場サポーターとして大切な活動の一つだと思います。

2016年度は、4年かけて手がける<びわ湖リング>の開幕という大きなスタートの年でもありました。第1作目の「ラインの黄金」は大好評につき、チケットが両日完売するなど、県内外の多くの方から注目を集め、よいスタートが切れたところです。

2017年度のプログラムも非常に充実したラインナップをご用意しています。2018年度には、節目の開館20年を迎えます。サポーターの皆さまには、これからもびわ湖ホールファンの一人として、引き続きご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成29年3月

公益財団法人びわ湖ホール

理事長・館長 山 中 隆



目 次

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告	1
平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要	20
平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要	22
平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱	24
平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳	25

びわ湖ホール劇場サポーター 活動報告

期別（五十音順）

2016 年度 劇場サポーター活動報告

第19期 亀井 恵利子

今年度は旧サポーター制度でいうところの2期6年の最後の年となりました。そこでできるだけびわ湖ホールに足を運ぼうと心に決めて臨みました。とりわけ各種講座への出席は頑張ったつもりではありますが、日程が合わずやむなく諦めたものも多くありました。交流会まではなかなか網羅できず、また、過去数年間のサポーター活動等により私はワーグナー作品を全く受け入れないという結論に至ったため、ワーグナー関連のセミナー類については今年度は潔く全て欠席ということにさせて頂きました。

印象に残っているのは今年度も中村敬一先生のオペラ講座(連隊の娘)です。ストーリー紹介に留まらず作品の背景などを大変分かりやすく解説して頂き、さらに本公演キャストの実演や指揮者の園田隆一郎氏のお話まで盛りだくさんで、早起きして来た甲斐があったと充実した気持ちで帰路につきました。

毎月届くチラシは今までと変わらず友人関係を中心に配布しており、楽しみにして貰っています。いくらか余ったものは居合わせた人に渡してみると意外な趣味が判明して話が弾むこともあります。ただ、神戸からびわ湖ホールというのはなかなか足を運んで貰うのが難しいのが実情です。そんな中で1月に開催されたバレエセミナーはバレエ教師をしている知人に「こんな機会はなかなか無い」と喜んで頂けました。その他、歌舞伎や狂言に興味を持っている人もいますが、私のサポート会員での招待が夜の部限定だったため翌日のことを考えると足を運んでもらえず、一緒にびわ湖ホールへ、という目標はまだ実現しておりません。なかなか動員には繋がりませんが、それでも2017年度は興味をそそられる作品が数多くラインナップされているので宣伝活動も楽しくなりそうです。

サポーター制度はここ数年でかなりの変革があり色々思うところもありますが、中でも卒業制度はなくなったということですので、相変わらずマイペースで活動を続けさせて頂こうと思っております。

2016 年度の活動を振り返って

19 期 北次妙子

2016 年度は何とも予定が重なることの多い年だった。びわ湖ホールのサポーター対象講座にも十分参加できなかった悔いが残る。言い訳はいくらでもできる。遠いとか、忙しいとか土日の昼間だからとか、実際片道 2 時間は超えるし、乗り継ぎが悪いときはあちこちで 10 分、15 分と待たなければならない。

しかし参加した数回は だんだん充実してきているように感じた。常連の方も多く、文化というのはこうして長い時間かけて育つのかなと思った。頭で理解するだけではなかなか文化に到達しないが、知識もないと行く道も見えない。少しずつ見えてくるものかもしれない。

今年度は、サポーターの活動ではないが、ラ・フォル・ジュルネとジルヴェスターのコーラスに参加した。平日夕方は思ったより電車の乗り継ぎがよく 2 時間かからないこともあることに驚いた。もっとも、帰りは便が少なく、帰宅は 11 時を回っていたが疲労感以上に充実感があった。ゴールのある活動は多少無理をしてもやりたくなるものだ。特に年末の観客との一体感はやはり、文化は地域に根ざしているのだと感じた。

チラシ配りについては、今年は腰砕けになってしまった。勇んで始めたものの、去年おいてくれたところの担当者が変わったり、荷物の関係で持っていけなかったり、ひと月抜けるとなんだか渡しにくかったり、渡したい時に持っていなかったりで、無駄にってしまったのもあり、申し訳なかったなと思う。遠方ということもあり、もともと貰ってくれるだけの人も多かったこともあり、来年は少しやり方を考えなくてはと思っている。

びわ湖ホールの景色についても言っておきたい。今年この景色は何にも代えがたいと思う瞬間があった。この地域に住む人がしきりとうらやましかった。

こうして 3 年が過ぎたのだと感慨深い。

3年目のサポーター活動

19期 藤井 嘉章

サポーターに採用していただいて、早いもので3年を終えることになります。1年目から交流会活動に参加して、昨年度に引き続き定例会のメンバーとしていろいろな企画を考え運営にも携わることができました。うまくいかなかったことも経験し苦勞した面も多々ありましたが、皆さんと共同作業で創り上げる交流会事業は大変充実したものとなったように思います。

一方、個人活動に目を向けると、やはりあまりPR活動は活発ではありませんでした。家族や友人と一緒に公演に来館すること、自分自身もオペラを初め多くの公演に足を運んだことなど最低限の個人活動にはなったかなと思いますが、あまり広くPRはできませんでした。

3年経った今、20名ほどいた同期の方たちは現在3名しか残っておられないようです。大変残念なことです、サポーターに登録された方が一人でも多く活動を継続できるようにサポーター活動になるよう願っています。

私は 20 期という事で、活動も 2 年目ということになりましたが、今年度は個人的な事情があり、活動については、後半は殆ど参加が出来ない状態であったのはとても残念です。その中でもなんとか参加が出来たものをあげますと、

2016 年 5 月 7 日 オペラ講座「ドン・キホーテ」

5 月 22 日 「びわ湖ホール劇場サポーター」

第一回基礎講座（牧野 優氏による講演）

7 月 24 日 片浦 正和氏による講演「夢の箱創り」

9 月 18 日 オペラ入門講座第 1 回（加藤浩子氏講演）

10 月 2 日 同第 2 回（加藤浩子氏講演）

9 月 22 日 古典芸能講座 狂言をもっと楽しむ（深田 博治氏講演）

11 月 6 日 「びわ湖ホール劇場サポーター」

第二回特別講座（廣木 齋氏による講演）

特に、牧野優氏、片浦正和氏、廣木齋氏による特別講演は、大変貴重で、これぞサポーターでなければ聞けない、というお話をきかせて頂けたと思います。

また、サポーター活動や、びわ湖ホールでの公演については、

沼尻竜典 オペラ指揮者セミナー

オペラ「ドン・キホーテ」舞台稽古見学

劇場サポーター秋のハイキング

わいわいコンサート

沼尻監督の「指揮法セミナー」は昨年度に次いで 2 回目の参加でしたが、びわ湖ホールでしかできない企画であり、もっと多くの参加者（観客）に来ていただけたら、という思いはしきりです。

というところで、あとは、各種催しへの参加は全滅状態でした。

今後のことですが、来年度こそ「皆勤」を目指してがんばりたい、という事と、周囲の人に、びわ湖ホールを宣伝し、何とか一人でも多くの人をびわ湖ホールへ連れて来れたらと思っています。実はわたくしは奈良在住ですが、正直、周囲の人は、びわ湖ホールという「遠い」という印象を抱いてしまう方が大半です。（実は物理的には大して遠くない。奈良からだ大阪、まして神戸方面のホールへ行くより近い。）できるだけ宣伝に努め、びわ湖ホールの素晴らしい魅力を広めたいと思います。

次年度もよろしくお願いいたします。

この一年を振り返って 20期 北庄司文良

劇場サポーターとしてこの一年は大阪在住であるため、なかなか定例会を始めいろいろな企画に参加できなかったようにおもわれます。が、オペラ公演や関連の企画には参加させてもらっています。

また、オペラ愛好会という団体に所属して東京のオペラを観に行った際には愛好会の仲間にびわ湖の公演を話したり愛好会の関西例会には皆さんとびわ湖ホールオペラ公演について話したりしています。

来期も劇場サポーターとしてお世話になりますが、私事になりますが、いつの日か「びわ湖ホール4大テノール」、及び「びわ湖ホール声楽アンサンブル」のコンサートを酒蔵で開催することが出来ればいいと思っています。

びわ湖ホール劇場サポーター2年目活動報告

20期 中村 利和

サポーター2年目は舞台芸術やびわ湖ホールへの理解をより深めるため、開催頂いた講座に積極的に参加させて頂きましたが、サポーター交流会への参画は殆どできずに過ぎてしまい、反省の残る結果となりました。

(1) PR 活動

初年度同様、大学図書館と企業の福利施設を主に広報誌 Stage 等の資料を置いて頂きました。何件か問い合わせがあり、置いて頂く意義を感じました。一方、友人・知人への働きかけは不発で、地域性も含めびわ湖ホールがまだ遠い存在との認識が少なくないことも実感しました。

(2) 講座・研修

2年目は総計19件の講座や研修の機会を与えて頂き、2件を除いて受講させて頂くことができました(うち1件は大雪で足止め!)

オペラ作品以外の講座もびわ湖ホールへの理解を深めるのに役に立つ内容だったと思います。

- ・舞台監督の仕事(5/22)・ドイツの劇場とびわ湖ホール(6/19)
- ・舞台芸術の魔力(11/6)・声楽アンサンブル(12/4)

(3) 自主交流会

定例会への参加は2回に留まり、交流会イベントにも参加できませんでした。まだ気が多いせいか、足が滞りがちでした。

サポーターとして2年が経過し、びわ湖ホールが自分の中でより大きくなってきているように感じます。

3年目はより大きくなるびわ湖ホールにさらに近づけるように努めたいと思います。

『クラシックが益々好きになった』

21 期 内田 勝治

今年度は、持病の性であまり無理が出来なかったので不本意な 1 年ではあった。しかし、びわ湖ホールに通い始めて 3 年目になるが、今年度が一番足を運んだ 1 年になったのではないかなと思う。以下、サポーター初年度の感想に相応しくないかも知れないが、サポーター 1 年目の感想として頂きたい。

びわ湖ホールを知るまでにオペラを鑑賞したのは 3 回ほどだった。所属する合唱団に関西二期会のバリトン歌手の先生を指揮者にお迎えしてから、3 回鑑賞する機会があった程度である。2014 年 3 月に「死の都」を観て、感動すると共にびわ湖ホールの取り組みが他のホールとは違うと思い直ぐに会員登録をした。27 年度にサポート会員、28 年度に劇場サポーターとのぼせてしまった訳です。

初年度は、「ダニエルの物語」「ジルヴェスターコンサート」「ヨハネ受難曲」。27 年度は、「オルフェオ」「ジルヴェスターコンサート」「さまよえるオランダ人」「フィガロの結婚」とアンサンブルの「定期公演」。この年、ワーグナーに衝撃を受け、オペラをもっと知りたいと思いました。

今年度は、「ドン・キホーテ」「アンサンブル定期公演」「ドン・パスクワレ」「ザクセン声楽アンサンブル」「ドイツ歌曲研修」「クリスマスの万華鏡」「ジルヴェスター」「サティと武満徹」「ラインの黄金」とオペラ講座やサポーター研修会での、裏方のプロの講演。兎に角、体調が悪くどうしようかなと思っても、びわ湖ホールに行くと帰る時は元気になっているという事が、多かった様に思います。

幸い 2 月に入院治療を受け、体調も持ち直しつつあるので、サポーターとしての活動も積極的に参加し、自分自身ももっと音楽を楽しみたいと考えています。

～劇場サポーター体験記～

21期・奥野ちよみ

昨年の春、少し時間の余裕ができたので、ずっと以前から関心があったびわ湖ホール劇場サポーターに応募しました。

そして、さっそく4月から「ラ・フォル・ジュルネびわ湖2016」の案内資料を、何人かの友人へ送付しました。すると、私の予想以上の反響がありました。友人らは、びわ湖ホールの素晴らしさや「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の情報をよく知っていて、是非とも見に行きたいとの返事が返ってきたのです。

その後は、久しぶりの再会や、びわ湖ホールの案内情報の送付、チケット予約など、思いも寄らず私の日常が一機に慌ただしくなりました。

また、「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」でのボランティア活動にも初めて応募し、「にゃんばら先生」のアテンドという思いがけない楽しいボランティアも体験しました。

その他に、公演ちらしの配布にも何度かチャレンジしてみました。びわ湖ホールが発行するちらし類は、どれもインパクトがあり、一目で公演内容がイメージできるデザインに仕上がっているので、手渡しする相手方の多くが関心を示し、受け取ってもらえます。

各ちらしの配布先としては、公演内容の客層を判断しながら、図書館や公民館施設、大学ホールやラウンジなどの情報コーナーへの設置をお願いしました。ただ、受付の窓口で受け取ってもらえても、実際にちらしコーナーへ配架できるかどうかは確約できないとのことでした。

特に、この1年を振り返っての成果としては、劇場サポーターが主宰する交流会の講座で、伝統芸能である「能楽」を楽しむ為の講習会企画が実施できたことです。ここでは一人の能楽ファンとしての自由な立場での解説を心掛けました。また、この講座の為の資料作りでは、何人もの「能楽友だち」の情報が役立ちました。

ただ、この一回だけの解説では時間が全く足りず、今後も伝統芸能や能楽に関する情報提供の機会があれば、また楽しい企画を進めてみたいと思います。

びわ湖ホールでの公演は、オペラやバレエなど欧米由来の舞台芸術が中心なのですが、これら海外の芸術文化に親しむ以前の基礎知識として、自国の伝統文化への理解はとても大切な要素であると思います。これからも自身のサポーター活動の基軸として、日本の伝統芸能の魅力を発信していきたいと思います。

先輩諸氏に交じり、初めての経験をさせていただきました。サポーターの主旨は「びわ湖ホールの魅力を知り」「広報活動を通じて需要を掘り起こす」という理解をしています。申し訳ないことに、後半の目的は殆どできていません。そこで前半の内容＋αでまとめます。

【ホール主催の講座】

びわ湖ホールでの上演演目に先立つタイミングで、夫々2～3 時間。音・映像付きの本一冊分くらい という充実した内容でした。老眼の進行に伴い読書量が落ちていることもあり、私にとっては重要な知識源となりました。そしてその後の本番をより楽しむことができました。

【サポーター対象の基礎講座】

夫々の第一線でご活躍の方のお話を伺うことができました。舞台づくりの裏側について、興味深いお話を聞くことができました。

【定例会 全7回】

サポーター主催で、体験や講座、ワークショップなど。私自身、9月の定例会では「海外で舞台芸術を楽しむ旅」と題してプレゼンをしました。通常であれば旅の記憶は忘却されていくものですが、これを機に自分の貴重な記録となりました。

【ハルモニアへの投稿】

プロジェクションマッピング、ポピュラー音楽で育った演奏技術 に関して、自分の所感を投稿しました。書くことを通じ、自分の意見を整理し、確認することができました。

【レクリエーション】

レク担当として、サマーパーティとボーリング大会の企画、運営を行いました。これを通じて、サポーターの皆様とのコミュニケーションの機会ができたと思っています。

以上、サポーター活動は自分にとって重要なコミュニティとなっています。この一年できなかった広報活動も含めて、より積極的に活動を続けたいと思っています。

Many Thanks to びわ湖ホール （びわ湖ホールに感謝して）

木下恭子 （第 21 期）

劇場サポーターとしての活動内容

2016 年 4/29	総会
5/7	オペラ講座 歌劇『ドン・キホーテ』
5/22	基礎講座（1）・第 2 回定例会
6/4	シェイクスピア講座
7/23	古典芸能講座 歌舞伎編
8/3	『ドン・キホーテ』立ち稽古見学
9/18	オペラ入門講座 1 『ベルカント』
10/2	オペラ入門講座 2 『ドン・パスクワレ』
2017 年 1/15	オペラ入門講座 3 『連隊の娘』
2/8	『連隊の娘』立ち稽古見学

『ラ・フォル・ジュルネ びわ湖 2016』のボランティア活動

『Bon ダンス』のパフォーマーとしてのボランティア活動

『ハルモニア』への投稿

- ① 「この感動を今に」（オペラ『ドン・キホーテ』の立ち稽古を見て）
- ② 「ジュディとわたしたち」（プロとアマ）——BON★ダンスに参加して
- ③ WORKS（芸術作品）からのメッセージ

以上の活動に参加させていただきました。

サポーターとして、色々な講座やイベントに参加したり、パフォーマーとしてダンスに参加できたり、『ハルモニア』にも、3 回も投稿できました。

サポーターなのですが、びわ湖ホールをサポートするより、教えていただく方が多かったと思います。オペラについての知識も増え、文章を書くことによって、自己表現の楽しさも再認識しました。それと同じくらいに、人との関わりやコミュニケーションの大切さを実感しました。来期は、もう少し定例会に参加できたら、と感じています。

一年間、ありがとうございました。また、二年目もよろしくお願いします。

◆♦・*:...◆♦*° °°°・*:...◆ 。♡。°♡°。♡。°♡°。♡。◆♦・*:...◆♦*° °°°・*:...◆

知る事・体験する事の大切さ

1. はじめに

この1年間、古典芸能やオペラの入門講座など、多くのことを教えて頂きありがとうございました。特にオペラに対する興味は活動前に比べ飛躍的に大きくなりました。

2. 活動結果

私は数年前、60歳以上の人が通う滋賀県のレイカディア大学を卒業し、クラスやクラブ、またボランティア仲間との付き合いが続いている。サポーターになり体験していることやトピックスなどについて機会あるごとに話してきた。

一方、自分は当初からオペラについての知識はほとんどなかったが、先生方の講義やDVD・オペラ出演者による名場面の鑑賞、リハーサル鑑賞などを続けるうちにオペラが大変身近に感じるようになり、興味も著しく増加した。

そのため、友人への紹介も当初はイベントの情報を伝えるのみであったが、最近は作品のおもしろさも加味して紹介できるようになってきた。

例えば音楽イベントを人に紹介する場合ただパンフレットを手渡すだけではPR効果は少ない。その背景や見どころ・特徴などをプラスして紹介すれば相手への伝わり方も大きく異なり、PR効果も著しく増大すると感じるようになった。人に紹介するためにはまず自分がそのことについて知り、体験する事が大切と考える。

3. 感想

この1年間、先生方に丁寧に教えて頂き、特にオペラに対する興味が著しく増えた事をうれしく思う。来年度も是非継続したい。

4. 今後の方針

これからもオペラをはじめいろいろなジャンルの音楽・芸術についての知識を深めたい。同時にその良さを友人・知人、さらに多くの人に紹介し広めて行きたい。

サポーター活動報告

21期 西川 尚子

♪ 活動した内容

- ① びわ湖ホール主催の各種講座への参加
- ② 自主交流会への参加
- ③ レクリエーショングループの一員としてお月見会を担当
- ④ 毎月、びわ湖ホールから届けられる各種公演のチラシ等の配布

♪ その活動によって得られた成果

私がサポーター活動をしていることを友人に知ってもらい、チラシを渡すときに自分の感じたことを話すので、いろんな公演が毎月あることを知っていただけたと思います。

感想・反省点・今後の抱負

元々、オペラが好きで、びわ湖ホールに公演をよく観に来られていてサポーターになられた方が多い中、私は、オペラ初心者で、びわ湖ホールも子供のピアノの発表会で利用させていただきただけで、ほとんど何も知らない状態でサポーターになりました。 自主交流会では、皆さんの知識の豊富さに、「場違い？」と感じながら・・・、各種講座に出席させていただき、びわ湖ホールのすばらしさ、演目の時代背景やエピソード・作曲家等を知ることが出来ました。

そして、ラ・フォル・ジュルネ、「マクベス」、「ドン・キホーテ」「連隊の娘」「野村万作-萬斎 狂言公演」を鑑賞しました。 これらの公演は、シアターメイツの優待公演なので、小さいお子さんがたくさん鑑賞されているのに感心しました。シアターメイツの制度を知らなかったのも、今は大学生になった息子たちにも、小さいときに一緒に鑑賞に来たかったなあと残念に思いました。

なので、今後、シアターメイツの制度を知ってもらう活動をしようと思います。小さいときから本物に触れる機会があることは幸せなことだと思います。 まずは、子供が習っていたピアノ教室の先生にお願いし、各種公演のチラシとシアターメイツのチラシを生徒さんに配っていただくようお願いしました。 毎年、ピアノの発表会をびわ湖ホールで開催されていますが、先生もシアターメイツのことをご存じではありませんでした。 すそ野が広がっていけば・・・ と思います。

活動

PR 活動（チラシ類配布、びわ湖ホール facebook をフォローなど）

ラ・フォル・ジュルネのボランティアスタッフ参加

びわ湖ホール主催の基礎講座・特別講座など受講

オペラ講座、ワーグナー・ゼミナール（上級編）受講

サポーター交流会の定例会グループに参加

活動成果

今まで一度もびわ湖ホールの公演に足を運んだことが無かったが、びわ湖ホールの魅力について、人に話せるようになりました。また、友の会サポート会員になり、オペラなどの公演を鑑賞するようになりました。チラシ類の配布、SNS を通じて、知人にびわ湖ホールの公演などを知っていただきました。

反省点

忙しい時期に、交流会と講座の参加ができなかったり、チラシ配布が満足にできませんでした。チラシについては作業所の前にチラシ等を貼りだそうと思います。

感想と今後の抱負

今年は舞台芸術がどういうものであるか、オペラが総合芸術といわれるのは何故か、という興味で勉強した一年でした。お陰様で、少しは理解できるようになりました。同時にびわ湖ホールの素晴らしさが解りました。今まで横を素通りしていたのは勿体無かった。びわ湖ホールという素晴らしい劇場が滋賀県にあることに誇りを持ちました。

次の一年はもっとびわ湖ホールと舞台芸術の魅力を知って、その魅力をまわりの人達に知らしめたいと思います。

地元大津市で生まれ育ち、幼少より舞台芸術に親しんでいたため、びわ湖ホールの良さを広めるとともに舞台芸術に関する知見を増やしたいとの思いから、一年間劇場サポーターとして活動させていただきました。

残念ながら年度途中あたりから予想以上に仕事が忙しくなり、ご案内いただいた活動にあまり参加できなくなってしまいました、舞台監督のお話を伺う機会を得たり、オペラの舞台稽古を見学させていただいたり、普段なかなか知ることのできない舞台芸術の裏側を見る貴重な機会をいただきましたこと感謝申し上げます。以前はただ観るだけに徹していたオペラや演劇の上演に際して、裏側ではどのような稽古が行われ、運営スタッフ、出演者、演出家等がどのように準備を重ねておられるのかを垣間見たことで、観客として舞台を鑑賞する際の感動も高まり、今後もオペラをはじめとする興味ある分野について積極的に学んでいきたいとの思いが強まったことは、大きな収穫となりました。お送りいただいていたホールの広報誌は、舞台芸術好きの知人に配ったり、職場（県内の公共施設で一般の人にも訪れます）に余分を配置したりして、微力ですがホールの催しの宣伝をさせていただきました。

他のサポーターさんとの交流があまり深められなかったという反省点がありますが、これからもどこかで舞台芸術好きの方々とのネットワークを広げていくことができればと思います。短い間でしたが、ありがとうございました。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

21 期 平尾明子

一年間活動させていただきありがとうございました。縁あって大津市に住むことになり、地域活動に参加したく、びわ湖ホール劇場サポーターに応募しました。何も分からずスタートしましたが、先輩サポーターの方々がいろいろとお話してくださり、少しずつ慣れ、楽しく一年を終えることが出来ました。

定例会企画は、毎回工夫されていて、参加して学びや気づきをいただけるものでした。また、実際にオペラ鑑賞したり、ゲネプロに参加させて頂いたり、「芸術の楽しみ」が生活の中に入ってきました。

サポーター活動としましては、チラシは勤務先に設置し、同僚の方々に、びわ湖ホールの取り組みについて話しました。これからもコツコツと継続していきます。劇場サポーターリクリエーション担当に所属し、秋のハイキングを企画運営しました。皆で話し合い、下見に行き、当日ものんびり散策しながらハイキングを楽しみました。みなさまの音楽との関わりを聞かせていただく貴重な機会となりました。

「先ずはサポーターの人に、びわ湖ホールのファンになっていただきたい」と言われましたが、様々な活動に参加させていただき、びわ湖ホールに魅了された一年でした。ありがとうございました。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

21 期 平尾聡一郎

一年間、ありがとうございました。あっという間に一年がたってしまったという感じです。仕事の都合でなかなか参加できず、あまり貢献できなかったと思っています。とはいえ、自身の生活には音楽や芸術を楽しむ機会が増えました。劇場サポーターとして、みなさまと過ごすなかで芸術の楽しさを感じていたからだと思います。来年度も、自分のペースでびわ湖ホールの広報活動に貢献できればと思っています。

劇場サポーター活動としては、チラシを知人などに手渡し、イベントなどの告知をしました。また、リクリエーション担当として、秋のハイキングを担当しました。下見では地図を頼りにトイレの場所等を確認しながら、時間なども計りながら進めました。普段の仕事とは違った責任感を感じました。当日は参加者も多く、和やかなハイキングとなり、参加者のみなさんが喜んでくださりとても嬉しく思いました。

定例会等も参加できたりできなかったりですが、楽しんで継続していきたいです。来年度もよろしくお願いします。

いつでも初心者

2/期 松田純子

思い起こせば昨年、劇場サポーターに応募してみない？と、積極的な友達から誘われ、好奇心も手伝って申し込んでみました。以前から、バレエ、コンサート、演劇などが好きで、市民会館や大阪、京都などに足を運び、家族や友達と芝に参りました。びわ湖ホールも生まれてからというもの、素晴らしい舞台装置やオペラに魅了され、今日に致っております。

さて、サポーターとして1年目を終わりと12の感想は、全て感心ある事ばかりでした。面白そう、楽しそう、と定例会その他参加させていたいただき、メンバーみな様の博識に敬服致しました。メールでもごめか、様々な情報を教えていただき、今後の観劇鑑賞の参考になり、ああ劇場サポーターにおて良かったなあと実感している今日の頃です。

レクリエーションに属しましたか、毎回、集まるのが楽しい仲間巡りに巡り会えた事か、全体的にとっても良い経験となっております。音楽と離れた行事など、時には良かったのではないかと思います。(笑)
石年初心者、果リたい1年でした。

仕事の都合で中々叶わなかった「びわ湖ホールのサポーターになる夢」が叶って早一年。最初の活動はラ・フォル・ジュルネでのボランティア。コンサート会場入り口でチケット頂いたりプログラムお渡しする仕事は時間との勝負、いつもとは違う立場で開演前の緊張感を味わえます。子供クッションやお荷物預かりをお勧めすると喜んで頂けるのも嬉しいものです。最終日の終演近くに渡り廊下でお見送りしていると、笑顔の方やこちらより先に「ありがとう！」と言って下さる方がとても多くて、ラフォルの素晴らしさを再認識致しました。駐車場でホール側から来られた方に野外コンサート場所を尋ねられた時には案内図のさらなる充実を願いました。自身の行きたい公演とボランティアスケジュールとの調整失敗は反省点です。二つ目の活動はオペラ未経験の方をお誘いすること。これにはやはり事前のオペラ講座とゲネプロ見学がとても役立ちました。オペラに精通された先生方の見所聴き所に自分自身の感動を加えて話せるのですから説得力倍増！又、ストーリーだけでなく舞台装置や演出の工夫仕掛け等の話ができるのはびわ湖ホールサポーターならではの特権。これからもこの特権を生かして「びわ湖ホールオペラ」のファンを増やしていけたらと思います。色々な公演チラシを見るだけでも楽しいと言って下さる方も影ファンとして大切に。最後にサポーター同士の交流活動、定例会・レクリエーション・ハルモニア・らくらく連絡網での情報交換等々も、一人一人の活動を勇気付け支えてくれる本当に有難く幸せなお助け機能でした。

サポーターを楽しむ

21期 矢澤 和子

あっという間の1年。サポーターとしての1年は、楽しんだという言葉に尽きるのではないかと思います。

特典としての講座、定例会での勉強会など、どれも楽しいものでした。自分自身が今までよりもさらに、オペラは勿論その他のジャンルの音楽も楽しめ、充実した1年であったと思います。

月に1・2回は通いつめたでしょうか。より身近に感じられて、私の憩いの場になりつつあります。

私は何と言っても、こんなに近くでオペラを楽しむ事ができて、とても幸せですが、周囲の方達にオペラと言うと、楽しめるだろうかと不安に思うらしいのですが、そんな時こそ講座などで得た情報を基に、お誘いするのです。自分が楽しんで得た情報がそんな時に役に立つので、それもまた嬉しい限りです。

びわ湖を背にした素晴らしいホールでのロビーコンサートを聴くと、感激もひとしをで、本番も聴きに行こうという気持ちになるようです。

サポーターを1年やったからいいというものではなく、サポーターでい続けて、時々定例会等で情報を得て、お互いに交流しながら裾野を広げていけるといいですね。

平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要

◎ 劇場サポーター舞台芸術基礎講座（全サポーター対象）

○ 第1回 基礎講座（参加者数：33名）

日 時 平成28年5月22日(日) 14:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：オペラの舞台監督の仕事

講 師：牧 野 優（びわ湖ホール舞台技術部長）

内 容：図面や映像などを交えながら、オペラ制作の手順から裏側まで、オペラの舞台監督の仕事について説明。

○ 第2回 基礎講座（参加者数：15名）

日 時 平成28年12月4日(日) 14:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：劇場にとって大切なもの ～びわ湖ホール声楽アンサンブルについて～

講 師：舘 脇 昭（びわ湖ホール事業部長代理）

内 容：びわ湖ホール声楽アンサンブルの成り立ちから活動内容、「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」など音楽普及活動への取り組みなどについて説明。

◎ 劇場サポーター舞台芸術特別講座（全サポーター対象）

○ 第1回 特別講座（参加者数：23名）

日 時 平成28年6月19日(日) 14:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：ドイツの劇場とびわ湖ホール

講 師：藤 野 一 夫（神戸大学教授）

内 容：地域の特色などを踏まえながら、ドイツと日本の公共劇場運営の比較や海外の劇場運営から見るびわ湖ホールのあり方などを説明。

○ 第2回 特別講座（参加者数：19名）

日 時 平成28年11月6日(日) 15:00～16:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：舞台芸術の魔力 ～さまざまな人々との出会い～

講 師：廣 木 齋（ミュージック・マスタース名誉会長）

内 容：事前アンケートなどを用いながら、オペラ制作の裏側や、過去に共に仕事をした著名人とのエピソードや人柄を語る。

◎ 劇場サポーターオペラ稽古見学会（全サポーター対象）

○ 歌劇『ドン・キホーテ』KHP 稽古見学会（参加者数：22 名）

日 時 平成 28 年 8 月 3 日 (水) 14：00～15：30

場 所 びわ湖ホール 中ホール

○ 歌劇『連隊の娘』KHP 稽古見学会（参加者数：21 名）

日 時 平成 29 年 2 月 8 日 (水) 13：00～14：00

場 所 びわ湖ホール 中ホール

◎ 公演関連講座（直近 3 期のサポーター対象）

びわ湖ホールで開催する主催公演をより一層お楽しみいただくとともに、周囲の方々へ積極的に公演の PR をしていただけるよう公演関連講座研修を実施。

- オペラ講座『ドン・キホーテ』（初級編）（参加者数：13 名）
- シェイクスピア講座（参加者数：11 名）
- 古典芸能講座＜歌舞伎編＞（参加者数：9 名）
- オペラ入門講座（全 3 回）（参加者数 第 1 回：10 名 第 2 回：11 名 第 3 回：8 名）
- 古典芸能講座＜狂言編＞（参加者数：6 名）
- オペラ講座『ラインの黄金』（全 2 回）（参加者数 第 1 回：7 名 第 2 回：6 名）
- オペラ講座『連隊の娘』（初級編）（参加者数：8 名）
- ワグナー・ゼミナール（上級編・全 3 回）（参加者数 第 1 回：7 名 第 2 回：8 名 第 3 回：7 名）

◎ 劇場サポーターメーリングリスト

びわ湖ホールからの事務連絡や自主交流会の案内、公演や講座の感想などの発信に用いています。



（12 月 4 日 第 2 回 基礎講座の様子）



（11 月 6 日 第 2 回 特別講座の様子）

平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要

1. 定例会の開催

- (1) 4月 3日 (日) 第1回定例会
(オリエンテーション/自主交流会紹介/年間計画紹介 ほか)
- (2) 5月22日 (日) 第2回定例会
(パネル・ディスカッション「オペラ作曲家バトル」)
- (3) 7月24日 (日) 第3回定例会
(ワークショップ「心を動かし、言葉にしよう～演じることは感じること!」/
『夢の箱創り』～照明家のびわ湖ホール建設よもやま話(照明デザイナー片浦正和氏))
- (4) 9月11日 (日) 第4回定例会
(「お能を楽しむ方法」/「海外舞台芸術おすすめプラン」)
- (5) 10月30日 (日) 第5回定例会
(「大津管弦楽団 講演」(小出団長、大谷副団長、若林理事)/
ワークショップ「心を耕すひとときを～表現する楽しみ方・エトセトラ～)
- (6) 12月18日 (日) 第6回定例会
(「マジック教室」)
- (7) 1月22日 (日) 第7回定例会
(「2017年度びわ湖ホール公演プログラム」・「ラ・フォル・ジュルネびわ湖2017」について
(初田 靖広報マーケティング部長代理)/「シルヴェスターコンサート体験記」)

2. サポーター通信「Harmonia (ハルモニア)」の発行

- (1) 7月 自己紹介号
(劇場サポーター、びわ湖ホール広報マーケティング部職員の紹介)
- (2) 10月 第37号(2016年秋号)
(基礎講座「オペラの舞台監督の仕事」/歌劇『ドン・キホーテ』稽古見学、公演鑑賞記/
声楽アンサンブル新メンバー紹介 ほか)
- (3) 3月 第38号(2017年春号)
(ラ・フォル・ジュルネの楽しみ方/歌劇『連隊の娘』稽古見学、公演鑑賞記 ほか)

※ サポーター通信「Harmonia (ハルモニア)」…

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」。1998年10月から1999年6月までに創刊準備号として3号を、2000年には名称を“Harmonia”(ハルモニア)として昨年度までに創刊号～第36号を発行しています。

3. レクリエーションの実施

- (1) 4月 9日(土) お花見ハイキング「甲賀流忍者の里を訪ねて」
- (2) 7月24日(日) サマーパーティー
- (3) 9月11日(日) お月見の会「かくや姫争奪戦」
- (4) 11月26日(土) 紅葉狩りハイキング「メタセコイヤ並木ウォーキング」
- (5) 12月18日(日) クリスマスパティー
- (6) 1月22日(日) ボーリング大会

4. そ の 他

- ラ・フォル・ジュルネびわ湖「熱狂の日」音楽祭2016〔2016年4月29日(金・祝)・30日(土)・5月1日(日)〕へのボランティア参加。
- 劇場サポーター交流会主催「わいわい！コンサート」〔6月5日(日)〕開催



(5月22日 第2回定例会の様子)



サポーター通信「ハルモニア」



(4月9日 お花見ハイキングの様子)

平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱

1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを活かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、「びわ湖ホール劇場サポーター」（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- 舞台芸術についての情報およびびわ湖ホールで開催する公演の情報を、口コミやチラシ配布などにより地域や職場の方、ご友人に広く伝え、観客創造につなげていただきます。
- 舞台芸術に関する講座や研修を受講し、知識を広め関心を高めていただきます。
- 勉強会や交流会などの自主活動を通じて、ネットワークづくりを進めていただきます。
- 公演運営のお手伝いをお願いすることがあります。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は概ね100人、登録期間は1年間とします。ただし、1年ごとに継続の意思確認を行いますので、希望される場合は更新することができます。継続の意思確認は2月～3月頃に行います。

4. 平成28年度活動

- (1) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・ 口コミやチラシ配布などによるPR活動
- (2) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・ 基礎講座
 - ・ 特別講座
 - ・ 公演関連講座
- (3) 自主活動
 - ・ 交流会などの開催
 - ・ 劇場サポーター通信（Harmonia）の発行

平成28年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳

【期 別】

1 期	2 名
3 期	4 名
4 期	2 名
5 期	1 名
6 期	5 名
7 期	2 名
8 期	5 名
9 期	4 名
10 期	3 名
11 期	2 名
12 期	6 名
13 期	6 名
14 期	3 名
15 期	8 名
16 期	4 名
17 期	9 名
18 期	10 名
19 期	3 名
20 期	5 名
21 期	13 名

【居住地】

●滋 賀 県		
大 津 市	42 名	
草 津 市	4 名	
守 山 市	1 名	
栗 東 市	1 名	
湖 南 市	1 名	
東近江市	6 名	
彦 根 市	3 名	
米 原 市	1 名	
長 浜 市	2 名	
高 島 市	1 名	
●京 都 府		
	15 名	
●大 阪 府		
	8 名	
●兵 庫 県		
	3 名	
●奈 良 県		
	3 名	
●香 川 県		
	1 名	
●愛 知 県		
	2 名	
●岐 阜 県		
	1 名	
●神奈川県		
	1 名	
●東 京 都		
	1 名	

【性 別】

男 性	43 名
女 性	54 名

計 97 名

発行 公益財団法人びわ湖ホール

発行年月 平成 29 年 3 月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <https://www.biwako-hall.or.jp/>